

マザーズ「改善」過半に

7～9月最終損益 ゲーム・IT好調

東証マザーズに上場する企業の最終損益は、2020年7～9月期に18年10～12月期以来、7四半期ぶりに「改善」が半数以上となり「悪化」を上回った。人手不足や消費増税、新型コロナウイルスの流行などで業績が振るわない企業が多かったが、ゲームやIT（情報技術）企業が「果敢もり需要」を取り込んだ。膨らんでいた先行投資を抑える動きも広がった。

マザーズに上場するや黒字転換するなど業績12億円の黒字（前年同期3、6、9、12月期決算が改善した。東証1・2は2億9500万円の赤字）と15億円改善した。開で、直近3年間の業績を部企業（同）では7～9月期に業績が改善した企業は37%。ジャストは43%にとどまった。9月期決算を発表した1マザーズでは、オンラインゲームを手掛けるAでいる企業も好調だ。家54社を集計。このうちingの最終損益が具のネット通販会社バガ51%にあたる79社が増益

	順位	社名	最終損益	前年同期増減額
改善	1	MTG	13.1	178.9
	2	メルカリ	42.8	113.9
	3	フリークアウト・HD	▲2.3	22.4
	4	Aiming	12.5	15.5
	5	ホットリンク	0.4	9.9
	6	ラクス	6.8	5.8
	7	CYBERDYNE	2.9	5.6
	8	ホープ	4.8	5.4
	9	中村超硬	▲0.7	4.9
	10	Jストリーム	4.5	4.0
悪化	1	ユーザベース	▲49.5	▲43.4
	2	リネットジャパン	▲17.5	▲17.7
	3	ナノキャリア	▲18.6	▲14.1
	4	そーせいG	4.7	▲5.9
	5	モブキャストHD	▲8.9	▲5.7

(注)▲はマイナス。単位億円。出所は日経NEEDS

コーポレーションでは「果敢もり需要」に加え、海外向けの越境通販サイトが利用者を集めている。渡航制限による訪日客の消費落ち込みを補う格好で薬や健康食品、紙おむつなどが売れている。MTGは1年前に減損損失が膨らんだ反動に加え、家庭用トレーニング機器などの売れ行きが伸びた。

新興2市場、50社最高益 今期最終

新興2市場に上場する企業も多かった20年4～6月期決算の時点より増えた。20日時点で21年3月期を予想する見込みだ。新の予想を含め6年間の業績を開示している企業のうち、継続比較できる414社（金融、決算期変更除く、日経NEEDS調べ）を対象に、日本経済新聞が集計した。情報サイトを運営するオールアバウトは前期比2・3倍の4億5000万円を見込んでいる。果

社名	最終利益予想	前期比増益率%	事業内容
岩塚製菓	21億円	19	米菓
医学生物学研究所	15.5	22	バイオ
シダー	3.8	84	介護サービス
オールアバウト	4.5	2.3倍	試供品紹介サイト
WDI	12	黒字転換	レストラン
パピレス	13.8	43	電子書籍サイト
イノベーション	1.4	57	IT製品比較サイト
テクノクオーツ	15.1	53	半導体製造装置用機器
ディーエムソリューションズ	2.8	黒字転換	ダイレクトメール発送
マキヤ	13	3.6倍	ディスカウント店

(注)期間は21年3月期を含む6年間。日経NEEDS調べ

や除菌グッズといったコロナ対策商品が好調。19年の消費増税に伴って売り上げが落ち込んだ反動も出る。今年10月末に予想(5%増の127億円)を引き上げた。